

# 新発田市新庁舎



かつて高札場のあった場所に建つ新発田市新庁舎



札の辻広場や商店街を望む1階の「札の辻ラウンジ」

## review

### 選評

一見、不思議な構成の市庁舎である。全体は七階建てであるが、低層部と上層部が大きく分かれており、低層部には巨大なボイド空間が通りに向かって開けられている。空色のガラスで覆われた上層部は低層部からセットバックし、ボイド空間の上を跨ぐように載っかっている。この高さ一三以、長さ五〇以上のボイド空間を跨ぐために、構造は上層部と低層部を免震装置で切り離す中間層免震を採用し、さらに上層部に大きなカタナリ一部材を導入して吊り上げている。何のためにこのようなことを行つたのであろうか、というのが応募資料を拝見した際の第一印象であった。

しかし、その疑問は現地視察において明らかになつていった。新発田市は古くからの城下町であ

るが、他の地方都市と同様中心地の過疎化が進み、JR新発田駅から新発田城に続く商店街はシャッター通りと化している。近傍の高校に通う生徒たちや住民は、商店街や古くからの寺町に寄ることもなく、駅までの道を通っていく。新発田市の二階堂馨市長はこの状況を改善すべく、起爆剤としての市庁舎建設を一〇年以上の期間をかけて市民に説得し実現にこぎ着けた。元の市庁舎は城の近くにあったが、敷地を市のメインストリートの結節点に選定し、設計コンペを通じてヨコミゾマコト氏が設計者に選定された。「デザインより機能重視」という市側の要望に対するヨコミゾ氏の提案は、夏祭りの際に神輿が折り返し通過でき、雪の降る冬期は可動扉を閉じて市民が集まれるボイド空間「札の辻広場」の導入であった。さらに、低層建物で構成された商店街に続く街並みへの圧迫感を減じるために上層部をセットバックさせ、かつ空に溶け込む軽快な外装デザインを採用した。建物内の各層には市民が夜八時まで自由に利用できるラウンジや作業スペースが設けられ、市民や授業を終えた高校生が夜遅くまで集まり、市庁舎駐車場を利用することで周囲の商店街への散策基地として機能している。「札の辻広場」では全国雑煮合戦、地産品の即売会、子供のためのクリスマスショーなど毎週のように行事が生まれ、普段は子供の遊び場



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。

〔2019年 第60回 BCS賞受賞作品〕愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR（赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業）／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／太田市民会館／オーディオテクニカ本社／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「〇番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA（市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー）／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ（中之島フェスティバルタワー（東地区）、中之島フェスティバルタワー・ウエスト（西地区））／立命館大学大塚いばらきキャンパス



建築主より

Message from Client

新発田市市長

二階堂馨 Kaoru Nikaido

### 城下町の風情を残す街並みを一望できる新庁舎

この度は、建築の分野で権威ある賞を受賞し、大変光栄に思います。庁舎建設にあたっては、「まちなかの賑わい創出」の観点から、この庁舎を当市のランドマークと位置付け、市街地を活性化させたいと考えておりました。

そのためにも、新庁舎を単なる市役所ではなく、人々が集まることのできる「札の辻広場」、そして、市民に開放できる「議場」などを兼ね備えた、全国でも珍しい、まちなかの開かれた庁舎として完成することができました。そして、多くの方々に喜んでご利用いただいております。これもひとえに、庁舎建設に携わっていただいた皆様のご尽力はもちろんのこと、すべての市民の皆様のおかげであると実感しております。

今後も、この素晴らしい賞の名に恥じぬよう、まちなかの交流拠点として、市民の皆様により親しまれるような場所となるよう運営してまいります。



設計者より

Message from Architect

aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所  
取締役

ヨコミゾマコト Makoto Yokomizo

### まち、人、建築を、ひと続きのものとする

友人を訪ねて初めて新発田に来た2007年春、まず駅前から続く商店街の長さに驚きました。そして、まちなかを穏やかに流れる新発田川を見つけ、川沿いを散策しました。端正な庭のある屋敷や風情のある蔵、板塀に囲まれた寺院、市場で談笑しているご婦人、綺麗な緑に揺らぐ水藻などを見て、新発田のことをもっと知りたいと思ったことを鮮明に覚えています。

まちなかの賑わい拠点づくりを掲げた素晴らしいプログラムのプロポーザルに参加することができたこと、思い描いた建築イメージをほぼそのまま形にすることができたことに対し、ご尽力下さった大勢の皆さま一人ひとりに感謝いたします。そしてなによりも、新しい庁舎や広場を最大限に活かしてくださっている多くの市民の皆さん、そしてそのことを評価して下さったBCS賞選考委員の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



施工者より

Message from Builder

大成建設株式会社  
北信越支店建築部 作業所長

入澤隆男 Takao Irisawa

### 二次元からの思考、三次元からの現物

本建物は、1~3階の下部がRC壁式構造、4~7階の上部が鉄骨造であり免震装置が3階柱頭に設置されています。鉄骨構造が吊り形式であり免震装置上にメタルタッチで鉄骨が立つ等、多岐にわたる複雑な構造システムが採用された工事でした。そのような高難度の構造形式を二次元の情報から読み解き、施工上の問題点を把握した上で施工計画を立案する必要がありました。そして、それを社員や専門工事業者に如何に理解してもらうかも大きな課題でした。そこで本工事では、3D-CADやBIMを活用して三次元での課題克服に注力しました。3Dならではの視覚効果により問題点をあらゆる方向から可視化することで、建築主・設計者との議論が深まり、それぞれが共通認識をもって課題克服に取り組むことができました。また、施工中に行った市民や学生向けの見学会でもそれらを活用し、見学者により現実的なイメージをもたせて完成する施設への期待を膨らませることができたと思います。



1. まちと連続する「札の辻広場」  
2. 飯豊連峰を遠望する4階テラス  
3. 市民が休憩することのできる1階ロビー  
4. 「札の辻広場」は子供たちの遊び場

新発田市新庁舎 計画概要	
●建築主	新発田市
●設計者	(有)aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所
●施工者	大成建設(株) 新発田建設(株) (株)伊藤組
●所在地	新潟県新発田市中央町3-3-3
●竣工日	2016年11月30日
●敷地面積	5,739㎡
●建築面積	2,841㎡
●延床面積	12,995㎡
●階数	地上7階、地下1階、塔屋1階
●構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造

「選考委員」 竹内徹・川島克也・栗山茂樹

として利用されている。議会会場はパーティションを取り払うことで市民の映画会や結婚式に対応できるよう設計されている。この開かれた市庁舎は「ヨリネスしばた」と名付けられ、駅前の新図書館「イクネスしばた」と合わせて住民・学生の格好のたまり場として機能している。

これらの機能を実現するために、構造設計者や施工者は難易度の高い架構や巨大な可動壁などの多くの技術的課題を限られた予算の中で解決することが求められた。設計者も機能を最優先としながらも、全体のバランスを取りながら丁寧なデザインの作りこみを行っている。このように、本作品は我が国の地方都市が共通して抱える市中心部の活性化のために行政・設計者・施工者・市民が一体となって作り上げ、有効に運営されている施設の好例として、BCS賞に相応しいものと考えられる。